チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル（注）	No.	タイトル	自治体名
	17	シビックプライドの醸成	横浜市
アイデア名（公開）	相鉄いずみ野線沿線におけるシビックプライドの醸成とシティプロモーション（仮称）		

（注）地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1．応募者情報

チーム名（公開）	花のいずみ野沿線組	
チーム属性（公開）	○ 1. 市民によるチーム　○ 2. 学生によるチーム　○ 3. 市民、学生の混成によるチーム	
代表者情報	氏名（公開）	神谷恵理

※ 公開条件について

次ページ以降の「2．アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示―非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

（注意書き）

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1．応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

＜公開非公開など＞

2．アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3．上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません）

4．この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

5．「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様でお願いします。

＜チームメンバー名簿＞

6．チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧下さい。）

2．アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

横浜市西部圏域（図１）は、市域の中でも、今後、急速に超高齢化と人口減少が進むことが予測されているエリアである。このプロジェクトでは、西部圏域の中でも特に相鉄いずみ野線沿線に着目し、そのブランド力や魅力を高めることで、西部圏域全体の活性化や住民の地域へのシビックプライドの醸成を図る。そして、こうした取組を通じて、西部圏域への定住人口や交流人口を増大させることを目的とする。

図 1　西部圏域の図

このプロジェクトが掲げる「相鉄いずみ野線沿線プロモーション」の基本コンセプトは、下記の通りとする。

① 沿線の各駅周辺にそれぞれ特徴のある拠点を創り、そこをベースに住民、企業、大学、行政が連携して様々なイベントを実施する。

② 各駅周辺の拠点と沿線における様々な住民主体のまちづくりとを連動させ、フェリス生を軸としたプロモーション活動を点から線、そして面（西部圏域全体）へと展開して行く。この地域の特産品を各イベントでブランディングする。

③ プロモーションにあたっては、横浜市のオープンデータを活用して運用されている ICT プラットホーム「ローカルグッドヨコハマ」等と連携して、出来るだけ圏域外の地域に情報を発信し、圏域外からの来訪者を呼び込むようにする。

なお COG2016 では、主に①について、下記のアイデアを提案する。

1．　<u>若者目線による既存イベント（マルシェ）のリニューアル（いずみ野駅周辺）«年４回程度»</u>

相鉄いずみ野線沿線の課題である知名度の低さに焦点を当て改善を図る。

これまで１０回開催されてきた「いずみ野マルシェ」のリニューアルを軸に据え、地域とのより密接なつながりを築くとともに外部や近隣からの集客と知名度の上昇を目指す。

- ２０代～４０代をターゲットにしつつ高齢者も楽しめるマルシェ
- 地産地消をかかげ、西部圏域特産の食材を積極的に取り入れる
- フォトジェニックな空間の実現

2．　フェリス女学院大学の学校開放（緑園都市駅周辺）

フェリスならではのキリスト教教育を活かし、相鉄いずみ野線沿線唯一の大学であるフェリス女学院として、沿線と大学の知名度を同時に上げる。また大学を開放することで子育て世代、高齢者、学生、多世代の交流を図る。さらにフェリスの生徒が、沿線の各拠点を移動することで点を線へ、そして面へとつなげる媒介役となる。

- 大学の解放（図書館、チャペル、食堂など）
- キャリア形成の新たなカリキュラムとして、地産野菜販売促進や農業体験などをいずみ野沿線地域で行う

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の 2 ページの欄内におさまるようお願いします。

横浜市西部圏域は、市域の中でも超高齢化と人口減少（図 2 参照）が急速に進みつつあるエリアであり、また住民の地域に対する愛着度（図 3 参照）や定住志向も市内の他の地域と比べて低くなっている。

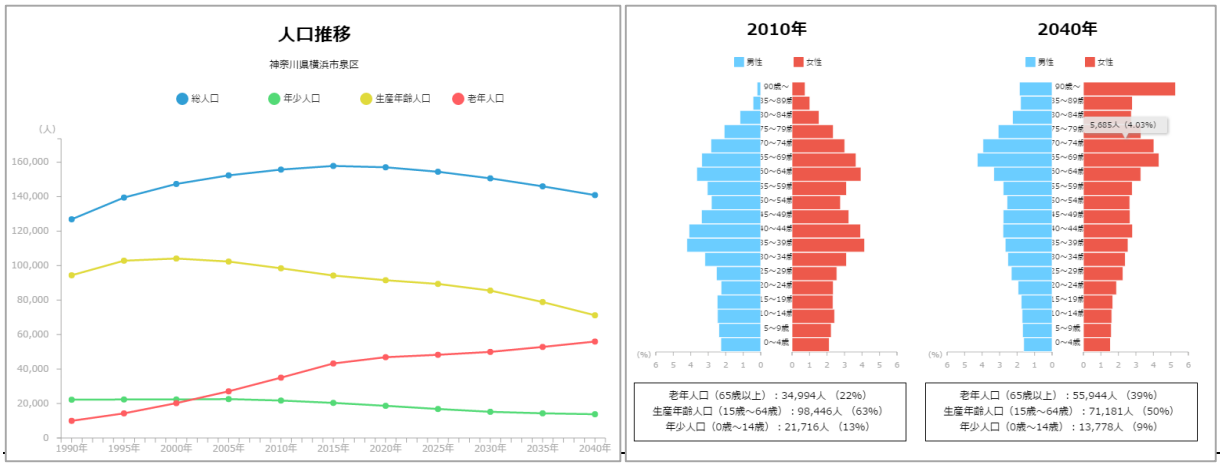


図 2　横浜市泉区の人口推移（人口減少と高齢化）

（出典：地域経済分析システム　RESAS　https://resas.go.jp/#/13/13101 より）

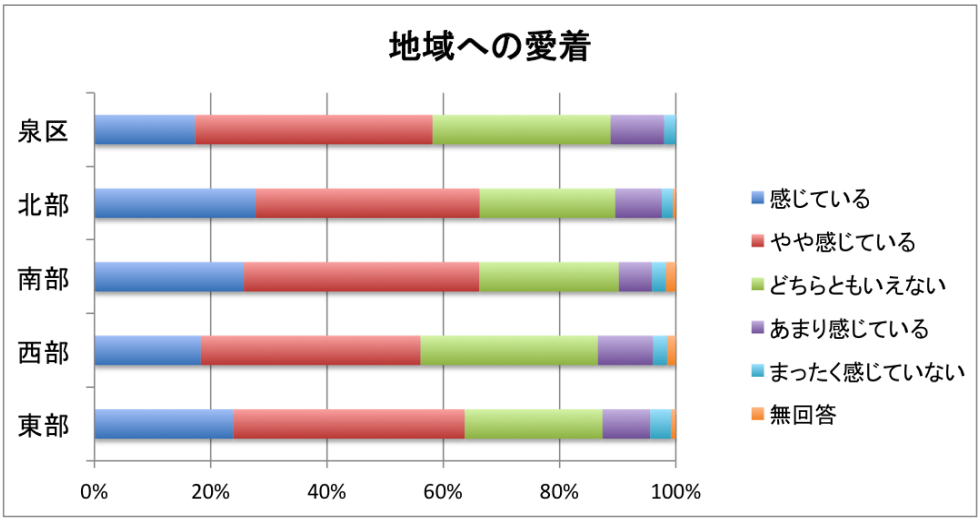


図 3　地域への愛着度

（出典：平成 27 年度　横浜市民意識調査より）

http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/chousa/ishiki/ishiki-index.html

相鉄いずみ野線沿線をほぼ包含する行政区である「泉区」も同様の傾向にあり、現在の大都市の郊外部が直面する課題が象徴的に現れているエリアである。それがゆえに、この相鉄いずみ野線沿線を中心に西部圏域において、住民の地域に対する愛着や地域課題を解決する活動への参加意欲、すなわちシビックプライドを醸成するプロモーション活動を通じて、定住人口や交流人口を増やしていくことは、横浜市にとって、優先的な政策課題であると考える。また大都市郊外の課題が象徴的に現れているエリアであるがゆえに、官民の多様な主体が連携し、都市創生の手法を新たに創発すれば、同様の課題を抱える他の地域への波及効果も大きいと考える。

一方で、相鉄いずみ野線沿線では、平成25年4月に横浜市と相鉄ホールディングス（株）が「次代のまちづくり」の推進に関わる包括連携協定を結んでおり、また、平成 28 年 6 月に沿線に存在するフェリス女学院大学と横浜国大、相鉄ホールディングス及び横浜市で「次代のまちづくり」の推進についての覚書を交わし、沿線のまちづくりについて様々な取組を始めている。さらにこの沿線では住民のまちづくり活動や農家による地産地消の取組などが活発に行われており、このアイデアをサポートする仕組みや人材、資源には恵まれている。従ってアイデアが絵に描いた餅に終わらず、実現するための社会環環境も整っているといえる。

■追加資料

〇相鉄線の駅ごとの乗降客集

- 年毎の増減は少ない。
- いずみ野線内の乗降客数は、分岐点である二俣川から極端に減少する

〇フェリス女学院大学の外部にむけた活動

- 大学祭
- 社会人向け生涯学習講座(オープンカレッジ)
- 大学公認の部活動が地域のイベントで発表

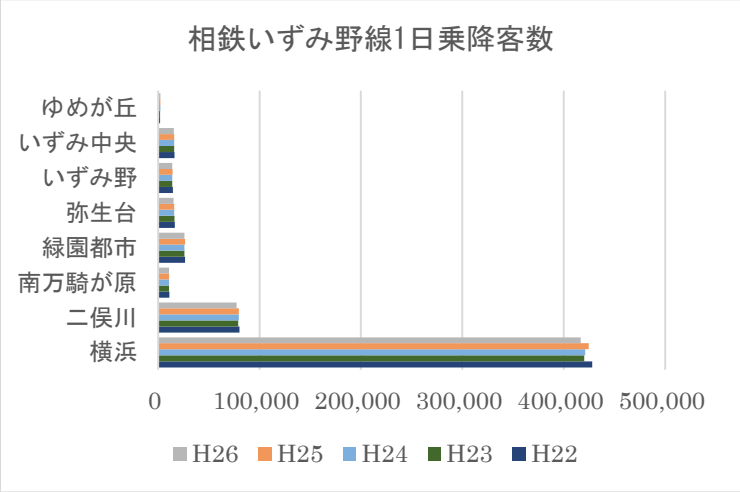


図 4　相鉄いずみ野線 1 日乗降客数

（出典：横浜市統計ポータルサイト）

〇泉区及び相鉄いずみ野線沿線の地域活動・イベント

- 緑園都市を中心とした住民のまちづくり活動
- 農家による地産地消の活動
- 泉区農援隊など住民による農家の支援活動
- FCP による駅前マルシェ・街カフェ
  緑園都市駅…街カフェ（年２回）
  　特徴：地域の女性たちが中心
  いずみ野駅　…いずみ野マルシェ（年４回）
  　特徴：沿線における地域の資源や魅力を発信する目的
- 地産地消の店づくり・誘致　等

マルシェ

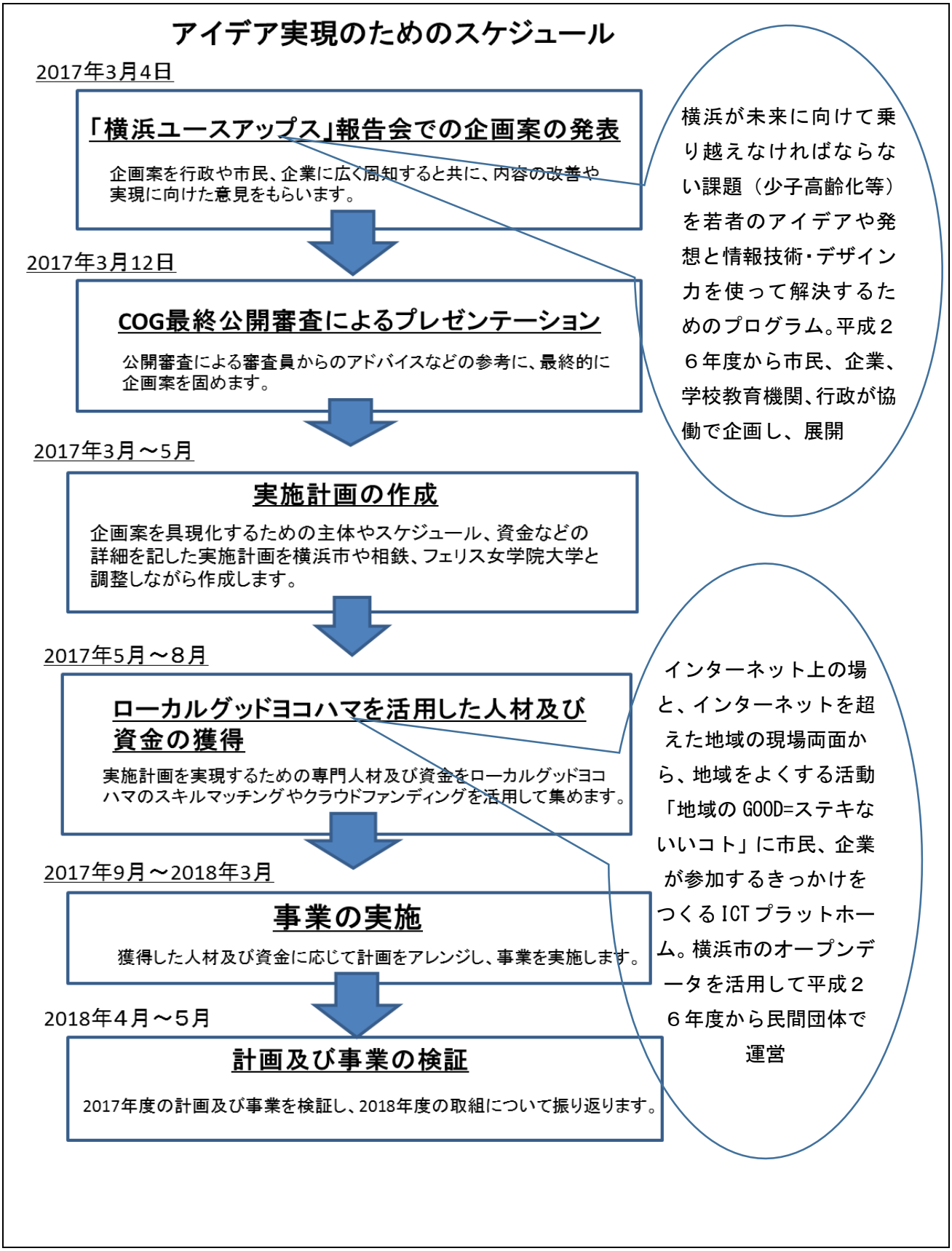
街カフェ

■横浜市の基本的な計画及び施策

- 横浜市中期４か年計画 2014～2017
  （施策 18：参加と協働による地域自治の支援、施策 29:コンパクトで活力のある郊外部のまちづくり）
- 持続可能な住宅地モデルプロジェクト（相鉄いずみ野線沿線地域を含む、４モデル地区を指定）
- 横浜市と相鉄ホールディングス株式会社との相鉄いずみ野線沿線における「次代のまちづくり」の推進に係る包括連携協定（平成 25 年４月）
- 国立大学法人横浜国立大学、フェリス女学院大学、横浜市及び相鉄ホールディングス株式会社の相鉄いずみ野線沿線における「次代のまちづくり」の推進に係る四者連携覚書（平成 28 年 6 月）
- 「相鉄いずみ野線沿線　環境未来都市　みらいに向けたまちづくり」（FCP）
- 横浜市の横浜郊外部次世代育成に関する協定及び施策、事業

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）



(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

■アピールポイント

多様な主体が連携している

- アイデアの企画の段階で地域住民、行政、鉄道事業者、民間企業、学生など多様な主体が既に連携しており、実行にあたっては更なる主体の参加も期待できる。

それぞれの主体にとってメリットがある。

- 相鉄いずみ野線沿線の活性が図られるだけではなく、大学にとってもブランドイメージが上がる、学生にとって就職に向けたキャリアを高めることができるなど関わる主体それぞれにとってメリットがある(win-win)

実現可能性が高い

- いずみ野マルシェや、フェリスのクラブ活動などアイデアを実現するための活動や社会資源が既に存在しており、それらを多様な視点で客観的に評価・検証し、改善し、付加価値を加えたり、相互に結びつけることを旨としたアイデアであるため投資対効果と実現可能性が高い。

持続可能性が高い

- 極端に費用をかけた一回限りのイベントではなく、持続可能性を追求している
- 学生は毎年一定数入学するので大学との協力関係が出来れば継続しやすい

点としてではなく、線や面として地域を捉え、地域の特色も活かしている

- 駅前や学校といった点だけでなく、相鉄いずみ野線沿線、西部圏域など対象エリアを重層的かつ広く捉えている
- 農地が多く農業が活発であることや、計画的に開発された住宅地である、大学や高校があり、多様な世代が暮らし、学んでいるといった地域の特色を活かしたアイデアになっている。

■アイデア実現にあたっての課題

- アイデアを実現していくスパンが長くなり、また効果が見えづらい為、参加者のモチベーションの維持が困難
- 現段階で相互に結びつきのない、単発的な地域活動で飽和状態になっており、通常の方法では新たな活動に対する参加者の広がりが期待できない。
- 既存の地域活動の主体が高齢化かつ固定化しており、若年層を中心とした新たな参加が少ない。

■解決方法

- ローカルグッドなどの ICT プラットホームを活用することで、活動の参加者や資金を広く集める
- フェリスのブランドや企業の参加で、発信力を拡大。地元住民だけでなく他の地域からの参加者を増やす
- 大学側に学生が恒常的に活動に参加するための仕組みさえできれば、多くの若者が毎年固定的に参加する見込みがたつため、活動のモチベーションの上昇や後継者問題の解決が期待できる